

人と自然とのかかわりを通し

子どもが「生きる力」を発揮する学習活動の創造

<1年次>

運動ブロック

6年2組 授業者 山田裕子先生

単元名…マットワールド1

体育科 マット運動

(1)自評

- ・器械運動を一人で実施した。学級のマット運動は久しぶり。支援のあり方を学びたい。
- ・支援のあり方として、資料の活用(副読本)。掲示用を準備していた。子どもの姿をビデオに撮ることも考えている。
- ・今できるところを「エンジョイタイム」とした。
- ・短時間の単元では、技の体得は難しい。技を十分にするために、技を絞ったほうがよかったか。
- ・自分の評価ではまだまだである。個別に当たっての支援が必要だ。
- ・技ができるということの捉え方に悩んだ。
- ・場作りを担当が決めようと思ったが、時間後と変わってくるので、子どもたちに決めさせて、取り組ませた。
- ・今日は、体ほぐしを少しだけやった。ブリッジだけ。
- ・次は、グループで、技を組み合わせたりするが、そこに音楽を入れることも考えている。体操のときに、音楽も入れてみたが、恥ずかしさで動けないようだった。

(2)話し合い

- ・技のポイントを後でカードに書いていたが、なぜ。→めあてを決めてはいたが、書くのはあとにしてしまった。
- ・安全性を考えると、体ほぐしの時間が十分にあったほうがよかったのではないか。
- ・今もっている力で技を楽しむとはどういうことか。
- ・マット運動に取り組んでもらってよかった。マット運動を楽しむとは、マットの学習を楽しむこと。体力づくりではない。マット運動のおもしろさを先生も捉える機会となる。何をエンジョイさせるか。今日の技は単技だったが、技をつなげることがおもしろい。連続を楽しむ。組み合わせがよい。3年生なら、前転・前転・後転・後転。最後の動きが次の動きにつながる。
- ・できる子を見せて、学び合うのもよい。
- ・マットの安全性はどうか。マットのみみをおる。すべりどめをするなど。安全性を考えると、体ほぐしをたくさんやったほうがよいのでは。固いマットのほうがいいのでは。
- ・組んでいても、二人が同時にやっていたが、サポートに回ってもいいのでは。

- ・振り返りの段階で、かかわりのうれしさが出ていた。(〇〇ちゃんから教えてもらってできた。)
- ・すべての技を研究することはない。前転、後転の基本さえ教師がおさえておくといい。
- ・マット運動もやりにくくなってきた。子どもの体型が重くなっている。体重差がありすぎると、支えるのも大変。
- ・かかわり・・・「だめだ、無理だ。」といいながら、上手な子どもをずっと見ていた。そういうことのかかわりを持たせるといいのでは。・同じレベルの子だけでなく、上手な子と組むことで、レベルアップにもなるのでないか。
- ・時間を操作して、学年で重点を決めては。そして、十分に楽しむ。
- ・ひとりの教師で器械運動は大変。しかし、今回は、学級でやるよさもあった。支援は少なくなるが、たくさん運動できる。年間で使い分けをしてはどうか。(鉄棒なども)
- ・場作りもよかった。整然とマットを並べるのではなく、子どもがおもしろおもしろにマットを工夫して並べていた。
- ・めあて1、めあて2にいいネーミングをつけた。一人で全部教えるのは大変なので、上手な子を生かす。
- ・掲示の工夫もある。何ができれば「できた」となるのわかる掲示。見る観点を明示するといいい。ポイントが分かっていると、子供同士で教えあえる。
- ・授業の始めと終わりがよい。最後は楽しかったかだけのアンケートだけで終わってはいけない。ねらいにそって、反省していた。ほめてあげたいこと・困ったことの二つをきくといい。
- ・めあて学習のくせをつける。どの教科でも。「あなたのねらいは何？」

***指導案(体育の)**

子どもから見た特性(興味関心・慣れてるか・きらいなのかなど)を指導案の中に載せてほしい。

<山田先生の授業から見えてきたこと>

- 1 前転・後転の基本さえ押さえておけばよい。そうすれば、すべての技を研究しなくとも、支援できる。
- 2 一人での支援は十分にできないので、上手な子どもを生かす・掲示を工夫するなどする。
- 3 ねらい1・ねらい2に、意欲を喚起する名前を付けると、楽しく取り組める。
- 4 同じレベルの子どもとの組み合わせだけでなく、上手な子とペアにすることで、かかわりが変わってくる。
- 5 体育でも、授業の最後の振り返りをきちんと行うことは大事である。
- 6 マット運動のおもしろさは、技の組み合わせである。